

## 勉強のやる気を 失った子への援助

愛知県刈谷市立かりがね小学校教諭  
かみやかずひろ 神谷和宏

### どんな子でも劣等感をもっている

世の中の少なくとも九五パーセントの子どもたちは、多少なりとも劣等感に悩まされています。そして、この劣等感が、勉強のやる気を失わせている大きな原因にもなっています。

人は誰でも、ある意味、地球上にいる他の人に比べ

ると劣っているものがあります。

たとえば、私は野球がイチロー、松井秀喜に比べて上手くはありません。ビル・ゲイツに比べてお金もないだろうし、マザー・テレサのように他人に愛情を与えることもできません。いくら私が教師としてステキな授業ができるとしても、コーチング研修等で多くの人を勇気づけることができるとしても、私より巧みに人を引きつける話し手は他に大勢います。

世の中のすべての人は、たとえホームレスであっても、大会社の社長であつても、ある点では私よりその人のほうが優れていることがあります。

しかし、私は劣等感を感じることはないし、挫折感を味わうこともありません。

その理由は、単純に彼らと自分を比較しようとしたりしないし、彼らほど上手にできないことがあるからといって自分をだめだとは思わないからです。

### 他人との比較から劣等感は生まれる

逆もあります。反対に彼らは、数学の授業において私のように行うことができないし、子どもの自己実現

のためにお手伝いはできないでしょう。教育研修でコーチングを指導する面でも、おそらく私のほうが上手いと思っています。他にも私のほうが多分上手な部分はたくさんあるはずですよ。

だから、どちらも劣等感を抱いてはいないといっているでしょう。

劣等感というのは事実や経験に起因するのではなく、事実に対して下した判断や経験に対する評価から生じるものなのです。その背景には、比較があります。

私に他人から劣るものがあつたとしても、私が劣つた人間であるわけではありません。人は基準になる考え方をしつかりもつていれば、劣等感を感じることはありません。結局は、「自分はどのような人間になりたいか」ということからくるのです。

## 劣等感を与えたのは 幼少期の親の価値観にある

さて、この劣等感を感じさせるようになってしまった根本の要因はどこから来るのでしょうか？

それは、実のところ「親」に原因があります。人は、

二〇歳くらいまでに、上書きされて形成されてきたものです。

私の場合もそうです。私は父親が酒乱で、極貧の中で育ちました。親戚も冷ややかな目でそれを見て、幼少期は「人生は辛いものだ」と思っていました。人と関わりをもつことは大の嫌いでした。そして三〇過ぎまで、このできあがつた自分の性格に悩まされました。もちろん、このブループリントは決して悪いものだけではありません。また、親がすべて悪いんだと力説したり、責任転嫁をしているのではありません。

多くの人は「目上の人を大切にしない」「人に親切にしない」「一生懸命働きなさい」「社会に貢献しなさい」「順番をきちんと守りなさい」「集団生活は譲り合うことが必要です」など、前向きなブループリントともあわせもっているのです。

ここでは、すべての人にはそのようなものが存在し、行動を起こすときの核になっているものであることを理解してほしいのです。

その人格の核になるものは、三歳から五歳くらいに形成されると言われています。そして、この時期に最も関わった人は誰でしょう。ほとんどの場合、「親」ですね。つまり、子どもの価値観、思考、言葉のつかい方の核は、このころの親の影響を受けています。長いこと教育に携わっている先生方は、十分納得していただけだと思います。子どもと親の行動や言葉づかいが非常によく似ていることが多いですね。そして、この時期に形成された価値観や思考などは「ブループリント」と言われています（多くの人がいう、自己イメージとかインナーチャイルド……など表現方法が違いますがほぼ同じものです）。

たとえば、この原稿を読まれている人の中にも、次のように考えている人があるでしょう。

「勉強は、とても苦しいものだ」

「一流の人には、生まれながらの才能があるからだ」

「お金持ちは、悪いことをしないと成れない」

「自分を犠牲にしても、人に尽くすことが思いやりだ」

このようなブループリントは、幼少期に形成され、

## ブループリントを書き換える

子どもがやりたいことに対しての障害を克服するために、最も重要なことは、このブループリントを書き換えることです。

私は以前ある中学校に勤務していましたが、その地域は、多くの親が「勉強なんてできなくてもいい」「勉強できなくても〇〇高校には行ける」などと考えていました。保護者会で平気で子どもの前でそのように語ります。その結果、その地域では、なかなか勉強に身が入らず、学力水準が高まらないのも当然のことでしょう。

## 人は「痛み」を避け、「快楽」を求める

どんな人でも行動を起こすときには、ある原理に基づいています。それは「痛み」を避け、「快楽」を求めるということです。

勉強は「辛い」「やっても意味がない」「やらされている」「楽しくない」と思っているうちは、意欲がわ

--	--	--	--	--	--	--

月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝
夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝
夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
朝	朝	朝	朝	朝	朝	朝
夕	夕	夕	夕	夕	夕	夕

くことはありません。仮に一時的に教師の前では熱心な取り組みを見せることがありますが、いったん目が離れるとやらなくなります。

また、よく子どもが宿題を忘れて、居残りをさせられている姿を見ます。それは、子どもにとって宿題に価値を見いだせず、やらされ感があるのが根本的な原因です。

逆に、学習することに心地よさを感じている子どもはどうでしょうか？

たとえば、現在私は、この原稿を書いています。書きあがった原稿を読まれた読者のあなたからメールが来たときのことを想像して書いています。子どもも同じです。勉強をした、宿題をしたことによって、そこによいことや価値を想像できるから意欲的になれるのです。

教師の研究は、「どのように指導したら身につくか？」「効果的な指導法は何か？」ということも必要ですが、それと同じように、勉強した後の子どもの価値観の変化を感じさせられる工夫（注1）を研究すべきであると思います。

### 楽しくなければやる気は持続しない

勉強の価値を意識づけることが最も望ましいことですが、幼い子どもには、未来のことを意識させることはなかなか難しいことです。しかし、学習を楽しませることは教師の工夫でいくらでもできます。

子どもが

「やりたくなるような課題を工夫して提示する」

「楽しそうな教具を開発する」

などです。楽しい学習を続けているうちに、学ぶこと自体に価値を見いだすことも考えられます。

### 学力はあるとき突然高まってくる

昨年度、知的障害のある子どもに「ひらがな」の授業を行っていました。彼らは五〇音をすべて覚えるまでは、なかなか勉強がはかどらず、辛いものでした。五〇音をすべて覚えるまでは、何を読んでも行き詰まってしまう、なかなか意欲は持続しません。しかし、五〇音をすべて覚えたたん、状況は変わりました。

文字が読めることで、本が好きになっていった子どもが数多くいました。

学力向上でも、同じようなものではないでしょうか？ 成果が出るまでは、かなりの日数を要します。つまり、この成果が出るまでの間は、辛い時期が続くのです。そこで、とにかく勉強すること自体が楽しくなるように注意を払うべきです。すると、あるとき突然、難しいことも勉強したくなる子どもに変身します。

### 三週間夢プロジェクト

子どもたちの意識を変える方法として、三週間夢プロジェクトを紹介します。これは、夢を描ける子どもにかなり効果があります。

まず、子どもに夢や目標をもたせます（注1）。そして、それを朝の会、帰りの会などで一〇回、感情をこめて唱えさせます。これを三週間（二日間）毎日行い、そのときの気持ちをシェアします。最初は、わけもわからず声に出していますが、三日もたてば覚えるようになります。一週間もすると、そろそろ行動が変わり、学習面でも変化が始まります。最初の数日は、

教師も子どもも、「なんでこんな変なことをするんだ？」という思いがわくかもしれませんが、それを取り切ってください。そして、日付のところに「正正」と記録し続けてください。もし、時間がなくてできなくても、三週間は思い出したときに取り組ませてください。数日のうちに子どもの意識が変化してきます。

(注1) 夢のもたせ方等は次を参考にしてください。  
 神谷和宏『教師のための「続ける力」コーチング』学陽書房、二〇一〇  
 『児童心理』二〇一〇年六月号臨時増刊「特集 コーチングとは何か」

# 自尊感情と共有体験の心理学

理論・測定・実践

子どもの自尊感情を  
 育てるには  
 どうしたらよいか。



近藤 卓著

A5判・224頁  
 定価2,940円(税込)

目次

- 序章 自尊感情の問題と対応
  - 第1章 自尊感情の理論
  - 第2章 自尊感情の測定
  - 第3章 共有体験
  - 第4章 基本的自尊感情を育む共有体験
- 参考資料：質問紙 翻訳版・1 (英語)  
 翻訳版・2 (日本語)

「いのちの教育」研究の第一人者が、生きる力、「いのち」を支える土台となる自尊感情の構造と、それを育む共有体験の理論を紹介。国内外の調査から生まれた自尊感情の測定法、教育やしつけにおける共有体験の実践、質問紙を収載。

 金子書房